

ヴェルディ・オペラ第11作目「群盗」(I Masnadieri) 研修会

於 2024年6月8日「みやこめっせ」

お話し 錦職昭彦

「群盗」の初演は1847年7月22日ロンドン・女王陛下劇場 (Her Majesty's Theatre) で行われた。この劇場名はヴィクトリア女王 (1819~1901) が即位した1837年に改名されたものである。

ヴェルディは第3作目「ナブッコ」(1842年3月初演) 第4作目「イ・ロンバルディ」(1843年2月初演) がリソルジメント運動と相まって大ヒット、作曲家として不動の地位を確立、イタリアNO1の人気作曲家になり各地の劇場から作曲のオファーが来る。

1845年10月ロンドン・女王陛下劇場支配人ベンジャミン・ラムレー(Benjamin Lumley) がミラノに来る。ヴェルディはロンドン・女王陛下劇場のため、一曲作曲することを約す。翌年ルッカ社(ミラノの楽譜出版社)から「海賊」になることをラムレーに告げた。

しかし、ヴェルディの体調が悪く、以前からリューマチ、のどの痛みに悩まされ遅々として回復しない最悪の体調になる。そんなことで支配人ラムレーに一年延期を申し入れる。そして前作「マクベス」でアドヴァイス、補筆等、世話になったアンドレア・マッフエイ(Andrea Maffei)を誘って療養の為レコアーロ・テルメ(ベローナの北東約30km レッシニ山地にある温泉郷)へ出かけた。そこでマッフエイと色々芸術論で花を咲かせる。ゲーテ、シラー、バイロン、ミルトンそしてシェイクスピア作品の数々を翻訳している彼からシラーの「群盗」をリコメンドされ、1846年8月マッフエイに台本の製作を正式に依頼している。つまりバイロンの「海賊」を一時棚上げして、シラーの「群盗」を作曲することを出版社、支配人ラムレーに通知した。

この「群盗」ロンドン初演は、イタリアの作曲家がイギリスの劇場の依頼で書いた最初のオペラである。

研修会「群盗」の教材

ナポリ・サンカルロ歌劇場管弦楽団 指揮ニコラ・ルイソッティ

主な配役

マッシミリアーノ (ドイツ・フランケンの領主)・・・ジャコモ・プレスティア
カルロ (マッシミリアーノの長男)・・・アキレス・マチャード
フランチェスコ (マッシミリアーノの次男)・・・アルツーロ・ルッチンスキ
アマーリア (長男カルロの婚約者)・・・ルクレチア・ガルシア
アルミーニオ (伯爵家の家令)・・・ウオルター・オマッジオ
モーゼル (司祭)・・・ダリオ・ルッソ
ロッラ (カルロの仲間)・・・マッシミリアーノ・クラロッラ

所要時間 2時間 5分

あらすじ (ヴェルディ・オペラ)

18世紀初頭のドイツ。フランケンの領主マッシミリアーノ・モール伯爵には二人の息子